



British Politics Today

2014年9月1日
第3巻 第9号

著者 菊川智文,

www.Kikugawa.co.uk
tomo@kikugawa.co.uk

この号の内容

- 1 はじめに
- 2 苦しむキャメロン首相
- 3 多文化主義の失敗
- 4 接戦のスコットランド住民投票
- 5 伝統か近代化かで揺れる下院

1. はじめに

イギリスではすでに秋の気配が漂っているが、政治的には非常に熱くなっている。9月18日のスコットランド独立の住民投票があり、保守党から UKIP に移った下院議員が、自分への信任を求めて引き起こした補欠選挙が近々行われる。来年5月に予定される総選挙前の最後の党大会が開かれる。しかも中東のイスラム国の問題、ウクライナ問題など政治課題は山積している。

2. 苦しむキャメロン首相

保守党の下院議員ダグラス・カースウェルが突然離党し、イギリス独立党(UKIP)に移り、イギリス政界に大きな衝撃を与えた。カースウェルは、党を替えたため再び選挙の洗礼を受ける必要があると自発的に議員を辞職したため、補欠選挙が行われる。その選挙区の[世論調査の結果](#)、カースウェルが地滑り的な大勝利を収めることが確実であることがわかり、政界は再び大きなショックを受けている。

この補欠選挙は保守党大会直後の10月上旬に実施すると見られている。[6月のニューアーク補欠選挙](#)で行ったような運動員の大量動員を行うと思われるが、どのような結果となっても保守党の次期総選挙の準備に大きな影響を与え、多くのエネルギーを奪うのは間違いない。

もし、この世論調査で示されたような結果が出れば、保守党を大きく揺るがせ、さらに保守党から UKIP へ移る議員が出るばかりか、保守党は、1997年総選挙で欧州統一通貨問題を巡って混乱に陥ったようになる可能性がある。当時存在したレファレンダム党に票を奪われることを恐れた保守党下院議員たちが、当時のメジャー保守党政権の方針に反して、勝手に欧州統一通貨反対を訴え出した。メジャーはそれを抑えられず保守党の地滑り的な大敗の一因となった。そのような兆しが既に現れている。

キャメロン首相は、欧州との関係にかなり慎重な対応をしてきた。カースウェルのような保守党内の欧州懐疑派の要求と UKIP からの脅威を考え、次期総選挙後に首相であれば、レファレンダムを実施するとしてきた。その場合も、EU とあらかじめ交渉し、イギリスに一定の権限を取り戻した上で、EU メンバーを継続するという立場で臨むとしてきた。しかし、UKIP の脅威を受けて、交渉結果にかかわらず EU 脱退に賛成するという保守党議員が100人いると言われる。つまり、保守党のマニフェストにかかわらず、自分のマニフェストを出すというのである。

有権者が最も大きな関心のある移民の問題で、EU が「人の移動の自由」の原則の変更に応じると見る人は少ない。その中、保守党の草の根支持者たち最大のウェブサイト、ConservativeHome（保守党の元副幹事長で、億万長者のアッシュクロフト卿がオーナー）がプリマニフェストを発表した。それでは、EU の人の移動の自由を止め、技能などのポイント制の移民制度にする案などが出されている。

キャメロン首相もかつてメジャー首相が経験したように、欧州の問題で苦しい立場に陥っている。

Survation/Mail on Sunday (8月31日)のカースウェルの選挙区 Clacton での世論調査

() 内は 2010年総選挙との比較。

保守党 20%(-33)、労働党 13%(-12)、自民党 2%(-11)、そしてなんと UKIP 64%(+64%)。

3. 多文化主義の失敗

キャメロン首相「多文化主義は失敗した」(2011年)

これまでの政府の多文化主義(Multiculturalism)政策の失敗と思われる出来事がある。この多文化主義とは、一つの国の中で異なる文化の存在を許し、それぞれを促進していくものである。この出来事には以下のようなものがある。

- ① バーミンガムなどの公立学校で、イスラム教関係者が学校の運営を乗っ取り、イスラム教の考えに基づく運営をさせようとしていたことが明らかになった。
- ② イスラム国(イラク、シリア)でイギリス人のイスラム教徒過激派がアメリカ人ジャーナリストの首を切ったと見られている。
- ③ 北イングランドのロザラムでパキスタン系の男たちが、長年にわたり、主に白人の若い少女を性的に虐待しており、その被害者の数は1400人に上る。

これらを引き起こしているイギリス人は、パキスタン系のイスラム教徒が中心である。また、2005年7月7日にロンドンでイスラム教過激派の同時テロ事件が起き、4人の実行犯は自爆した。そのうち3人はパキスタン出身の親を持つ。もう一人はジャマイカ出身だった。

これは第二次世界大戦以降のイギリスの移民に大きな原因があると思われる。イギリスとインドの関係は歴史上かなり長い。特に1950年代からインド系の人たちが多数イギリスの産業都市に移民を始めた。これらの人たちの多くは、イギリスで働くのは当初短期間と考えていたようだが、イギリスに落ち着き、次第に家族を呼び寄せ始め、そして親類、同じ地域の人たちが、知り合いを頼ってイギリスに入国してきた。そのため、もともと来た人たちが居ついたところに多くがまとまって住む形となった。その上、これらの人々は町からではなく、田舎出身が多かった。つまり、パキスタンの田舎からイギリスの都市へ移り、その文化的なショックは大きかった。そして、いとこ同士の結婚、配偶者を同じ出身地から呼ぶなどの過程を通じて、周りにはパキスタン系の人たちばかりでほとんど白人がいらないという状態にまでなっていく。そういう場所では英語を話さずとも生活できることから長くイギリスに住んでいても英語がほとんどできない人も多い。そのため、これらの人たちはイギリス人の普通の生活とはかけ離れた自分たちの生活、文化をそのまま継承する形となったところが多い。

また、これらの人たちに対する偏見が強く、そのため、益々一般のイギリス社会から孤立していくこととなった。

政府の多文化主義はこのようなコミュニティの孤立化に拍車をかける役割を果たした。孤立化を防ぐどころか、問題が起きてもそれはコミュニティ内の問題として介入を避けた。しかも人種差別と疑われることを恐れ、問題に目をつぶる傾向を増長した。多くの白人にとっては、多文化主義という大義名分の影に隠れ、問題に取り組まない言い訳にしていたと言えるだろう。

イギリスに来た最初の世代は、仕事や偏見で苦しみ、屈辱と失望に耐えてきた。また、これらの人々は、自分たちはイギリスへのお客であり、遠慮がちであった面がある。次の世代はよりよい生活ができると信じていただろう。しかし、次の世代になるとかなり異なってくる。イギリス人として生まれ、イギリス人としての権利を要求する。多くはイギリス社会に調和して生活しているが、社会から孤立しているコミュニティも少なくない。その中で、イスラム教過激派の問題も出てきた。

政府は今や国のアイデンティティをはっきりさせ、社会の融合化に努めている。しかし、これは一ター朝では片付かない問題である。

パキスタン系イギリス人 120 万人
全人口 6300 万人の
約 2%

4. 接戦のスコットランド住民投票

スコットランド独立の住民投票が9月18日(木曜日)に行われる。あと2週間余りとなった。独立賛成側と反対側のリーダーによる第2回目のTV討論が8月25日行われた。独立賛成側は、スコットランド政府のサモンド首席大臣、スコットランド独立党(SNP)の党首。反対側は、ブラウン労働党政権で財相を務めたダーリング下院議員だった。1回目はダーリングが優勢だったが、2回目は71%対29%でサモンドが優勢だった。

この討論が、住民投票に与える影響は少ないと思われていたが、急速に独立賛成派が支持を伸ばしている。賛成派47%、反対派53%の割合で、3%の票の行方次第で独立賛成が多数を占める可能性がある。もしスコットランド独立ということとなると、キャメロン首相は、スコットランドを失った保守党首相として歴史に残るだろう。

この住民投票へのキャンペーンはかなり過熱している。そのため、汚いとも言える手段を使う例が多くなっている。例えば、元ビートルズのポール・マッカートニーが独立反対の立場を明らかにすると、ソーシャル・メディアで非常に多くの批判、侮辱を受けた。ハリー・ポッターの著者JKローリングも同様だった。反対側の労働党下院議員のスピーチを賛成側が人を集めてやじり倒す、卵を投げつける、威圧的な行動をするなど、今やスコットランドでは、独立反対の声をあげると何らかの報復を受けるような状態がある。

サモンドも反対側から嫌がらせを受けたそうだが、どのような結果となっても、この対立で生まれた傷跡は今後かなり残りそうだ。

秋の気配の漂う庭



雑記

キャメロン首相は、2010年の総選挙で、移民が多すぎるとして、2015年までに年間の移民数が10万人を下回るようにすると約束した。しかし、この望みは到底かなえられないことがはっきりとした。

統計局によると、この3月までの1年間で、正味の移民の数は24万3千人だった。正味の移民の数は、居住するために移入した人の数から、海外に移出した人の数を差し引いたものである。政府が移入者の数をコントロールできたとしても、移出者の数はコントロールできない。しかもEU内(若干のEEA加盟国も含む)からの移入は、域内の移動の自由のために、コントロールできない。

最近の正味移民数の増加は、その3分の2がEUからである。EUの景気停滞の中、EUからの移民はイギリスに仕事を求めてくる。一方、それぞれの本国の景気が上向かないと帰国しない。また、イギリスから海外への移住は、イギリスで仕事があるのでそう多くない。

キャメロンが正味の移民数の数を一定の数字までに抑えると約束したこと自体に欠陥がある。コントロールできないのに約束を守ることはできないからだ。一方、イギリスの景気回復はキャメロン、オズボーン財相の求めたことである。その経済はまだぜい弱だと言われながらも、成長率がG7でトップである。自分たちの成功で自分たちの首が絞められている形になっている。

もちろん移民の問題に国民の関心がなければ別だが、国民の最大の関心事の一つである。このままでは、約束にもかかわらず、移民の数をそれほど減らせなかった、もしくは増える可能性もあり、責任を問われるのは必死の状況である。

5 伝統か近代化かで揺れる下院

イギリスの下院(庶民院)の事務総長(the Clerk of the House of Commons)は、下院の事務方トップのポストで、これまで議会の議事進行、手続きに詳しい人物が任命されてきた。2014年8月末で退職した前職は、1972年から42年にわたって下院で働いてきた人物であるが、4月に退任を発表した際、下院の慣例を変え、近代化しようとする現在の議長ジョン・バーカウと衝突したことがその原因と言われた。

議長のバーカウは保守党の下院議員であったが、議長就任後、保守党を離れた。議長の中立性を確保するため、その選挙区には主要政党は候補者を立てない慣行がある。

バーカウは、もともと保守党の右だった。ところが、自分の主張を貫く中で、次第に左寄りになった。妻のサリーは、もともと保守党支持だったが、ブレア労働党時代に労働党の支持者となり、ロンドン・ウェストミンスター区の2010年の地方議会議員選挙で、落選したが労働党候補者として立候補したほどだ。

バーカウが下院議長に当選した時には、少数の保守党議員と多くの労働党議員から支持を受けた。そのため、保守党出身でありながら保守党の他の下院議員からの受けがよくない。2010年総選挙後の議長選挙でもバーカウを議長の座から引きずり落とそうとする動きが保守党にあった。その他、保守党議員から議長への攻撃は何度も仕掛けられている。その小柄な体格を揶揄して内輪で軽蔑的に「小人」と呼ぶ保守党議員もいると言われるほどだ。
(右欄に続く)

夏が終わり散髪された街路樹



バーカウは、下院を今の時代に合ったものに変えようと考えている。これに反感を持つ議員が少なからずいる。イギリスの内閣は、時に「選挙で選ばれた独裁政権」と呼ばれることがあるほど力が強く、政府の施策を吟味するはずの議会を無視したように施政が進められることがある。それをできるだけ減らすために、議会の委員会の役割を重視するほか、重要な問題には、できるだけ首相や大臣に議会で説明させ、議論させることを心掛けている。時には、首相の意向に反することもあり、キャメロン首相もそれが気に入らないと言われる。

その近代化の一環として、バーカウは次期事務総長を外から登用しようとした。内部からの登用が慣例であったのを変え、雇用コンサルタントを雇い、外部に広告した。そしてそこで選ばれた候補者を議会の主要関係者をメンバーとする選考委員会で面接し、選ばれたのは、キャロル・ミルズ(Carol Mills)というオーストラリア議会のスタッフであった。

なお、この選考委員会の構成は、委員長は議長、委員には保守党院内総務(前職:7月の初めに内閣改造が行われた)、労働党影の院内総務、議会の予算を扱う委員会委員長の自民党下院議員、下院で最も権威のある委員会の公会計委員会委員長、そして議会オンブズマンの計6人だった。

この委員会でミルズが選ばれ、その名前は、女王の裁可を受けるために首相に送られた。しかし、オーストラリア上院の事務総長が[イギリス下院事務総長に送ったEメール](#)が表面化し、大きな騒ぎとなった。ミルズは議会のルール運営には疎く、イギリス下院の事務総長にふさわしい資格がないというものである

議長は中立であるべきだが、その中立性、むしろ独立性と言った方がバーカウにはふさわしいだろうが、のために嫌う人がいるようだ。バーカウは妻の問題で批判されることが多く、また、その性格やその問題の処理の仕方を嫌う人も少なくない。

議会の建物は老朽化し、議会の様々な制度も時代遅れになっている。議会手続きの詳細に詳しい人が必ずしも2千人のスタッフの長としてふさわしいとは限らない。イギリスの議会には新しい風が必要なのは間違いないように思える。この人事は現在、首相のもとで止まっているが、伝統か、近代化かで下院は揺れている。

引用、転載には引用先、著者名を明記して下さい。

コメント・配信お申し込み : tomo@kikugawa.co.uk